

厚生労働省
平成 30 年度障害者総合福祉推進事業
指定課題番号 16

「発達障害（読み書き障害、チック、吃音、不器用）の特性に気づくチェックリスト活用
マニュアルの作成に関する調査」

報告書

事業とりまとめ者

稲垣真澄（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）

事業担当者

金生由紀子（東京大学大学院医学研究科こころの発達医学分野・こころの発達診療部）

原 由紀（北里大学医療衛生学部言語聴覚療法学）

原 恵子（上智大学大学院言語聴覚障害学）

斉藤まなぶ（弘前大学医学部附属病院・弘前大学子どもこころの発達研究センター）

北 洋輔（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）

1. 事業要旨

事業とりまとめ者（稲垣真澄）は、事業担当者（金生由紀子、原由紀、原恵子、北洋輔、斉藤まなぶ）とともに全国の幼稚園、保育所、こども園（1都1道26県）合計154園の保育士・教諭に対して調査を行い、5-6歳幼児の話し方、くせ、読み書き、運動のそれぞれの様子について評価を行い、評定者間信頼性の検討、評定による精査幼児の二次調査を行った。

調査結果を元に、保育士・幼稚園教諭用の説明文を整備し、巡回相談担当者用の児童・保護者向け助言法、顕在化しにくい発達障害の概説資料をまとめたチェックリスト活用マニュアルを作成した。

2. 事業目的

読み書き障害、チック症や吃音症、不器用は顕在化しにくい発達障害と称されており、早期からの適切な支援につなげることが難しい実態がある。これらの発達障害の特性を就学前に評価できるツールを事業とりまとめ者は平成28-29年度厚生労働科学研究費補助金「顕在化しにくい発達障害の特性を早期に抽出するアセスメントツールの開発および普及に関する研究」により、「19項目」からなるアセスメントシートとして開発し、報告した。

本事業では本シートを全国展開し、新たな対象者に対してチェックリスト（CLASP）活用法の分析調査を行い、使用における課題を把握すること、保育士等が現場でCLASPを有効に活用できるための実践や効果的な研修のための資料を検討し、普及に向けた活用マニュアルを作成することを目的とする。

3. 事業実施内容

●調査対象地区：

青森県、香川県、山形県、埼玉県、沖縄県、福井県、福岡県、島根県、山梨県、秋田県、千葉県、神奈川県、山口県、岡山県、徳島県、新潟県、東京都、宮崎県、北海道、奈良県、高知県、愛知県の幼稚園・保育所・認定こども園の合計154箇所

●調査対象者：

幼稚園・保育所・認定こども園において、5-6歳幼児を保育あるいは教育している保育士、幼稚園教諭に対して日頃の子どもの話し方、くせ、読み書き、運動に関する調査票への記入を求めた。なお、弘前市の5歳児健診対象者（春季、秋季）には悉皆調査を施行し、それ以外の幼稚園、保育所は抽出例に対して調査した。一部の子どもについては、保護者にも評価を求めて、付けやすさなどについて確認した。

回答記入時間の検討ならびに評定者間信頼性の検討、チェックリストによる抽出例（精査例）の話し方、くせ、文字読み書き、不器用さの確認（二次調査）と指導助言法の提示を行った。

154機関1447名（◎評定者間信頼性調査：幼児107名（評定者214名） ◎二次調査：

弘前フィールド幼児 43 名、東京フィールド幼児 52 名を含む) の子どもの話し方、くせ、読み書き、運動に関する様子をチェックリスト評価した。

4. 調査結果 (添付の資料 1 および 2 を参照)

1) チェックリストの内容について分かりにくい点を抽出し、事業担当者が担当箇所 (子どもの話し方、くせ、読み書き、運動) について、付けやすさを考慮した表現に修正した。

2) チェックリストによりスクリーニングされた子どもたちの二次調査を 2018 年 10 月～2019 年 2 月に行った。事業担当者がそれぞれ子どもに直接面談し、話し方、くせ、読み書き、運動の精査を行った。子どもの各症状に併せて、保育士・教諭や保護者への助言・指導をまとめて、フィードバックを行った (資料 1)。

3) 回答時間の検討を行い、通常の子どもに対しては 5 分以内に付けられることを確認した。症状が複数みられる子どもでは所要時間がかかる (平均 10 分) ことも判明した (資料 2)。

4) 評定者間信頼性に関しては、幼児 107 名 (評定者 214 名) の統計学的解析により、信頼性が高いことが明らかとなった (資料 2)。

5. 考察

チェックリストは A4 一枚紙で、保育士・幼稚園教諭にとって分かりやすい内容であり、数分で子どもの「話し方、くせ、読み書き、運動」について広く検討することのできる内容であることが確認できた。最終的には、2019 年 2 月バージョンとしてシートを確定できた (資料 2)。裏面に折りたたむことで各種の発達障害 (吃音、チック症、限局性学習症、発達性協調運動障害) に関する判断をすることができ、さらに簡易的に助言・指導を行えるものとなった。保育士・教諭が利用するにあたっての要望事項、巡回指導員が活用するにあたっての事項をまとめて、各事業担当者による報告を元に、チェックリスト活用マニュアルを作成することができた (資料 2)。マニュアルは五部構成で、Ⅰ. 説明、Ⅱ. 血様手順、Ⅲ. 概説編、Ⅳ. 研究成果のまとめ、Ⅴ. 協力機関・施設名となっている。Ⅰは保育士・教諭向け内容で、Ⅱは巡回相談に関わる方達に向けた内容となっている。

6. 検討委員会実施状況

1) 2018 年 7 月 1 日 (日) : 国立精神・神経医療研究センターにおいて、調査に関する手順、各々の分担内容を確認した。

2) 2019 年 1 月 13 日 (日) : 上智大学大学院言語聴覚障害学研究室において、調査内容を紹介し、活用マニュアルに必要な事項について整理し、3 月刊行を目指して各自が準備する

ことを確認した。

7. 成果の公表について

国立障害者リハビリテーションセンターの発達障害情報・支援センターサイト (<http://www.rehab.go.jp/ddis/>) に於いて、吃音、チック症、読み書き障害、不器用の特性に気づく「チェックリスト」活用マニュアルを掲載し、周知する。

資料 1 「精査事例に対するフィードバック (FB)」

弘前精査例の返信用 FB 資料ならびに東京都某園返却用 FB 資料

資料 2 「「チェックリスト」活用マニュアル」